## 令和5年度学校評価報告書

令和6年3月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道利尻高等学校長 小 林 洋 介

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

## 1 重点目標

知性・人間性・健全な心身のバランスのとれた生徒の育成

- (1) 主体的・対話的で深い学びに向けた指導の推進
- (2) 多様性を認め自他を尊重する豊かな指導の推進
- (3) 自己の将来を見つめ、自己実現を目指す指導の推進
- (4) 健康や安全、命の大切さに関する指導の推進
- (5) 地域の教育資源及び各学科の特色を活かした教育活動の充実
- (6) 学校教育目標・学校経営目標等の共通理解に基づく協働体制の構築
- (7) 学校課題や自己課題等を踏まえた教員の資質の向上

## 2 自己評価・学校関係者評価の概要

評価項目	自己評価及び改善方策等	学校関係者の評価及び意見、要望、改善方策等
主体的•	<ul><li>授業公開週間や研究授業、校内研修等を</li></ul>	特になし
対話的で	通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現	
深い学び	に向けた意識をより一層高めていく必要が	
に向けた	ある。	
指導の推	・学力上位層生徒を意識した講習や習熟度	
進	別学習などの研究等を次年度も継続して行	
	う。	
	・商業科を中心に検定試験の積極的な受験	
	により学習意欲が喚起されている。	
改善		責極的に活用し、教職員全体で「授業の工夫・改善」
方策	を図ることができた。次年度も継続して取	り組む。
		屋したうえで生徒個々に応じた適切な指導や支援に
	努めて、彼らの学びや成長を最大限に引き	
		を授業の資料として効果的に利用し、わかりやすい
	授業を展開できるよう改善していく。	
		重点を置きつつ、思考力、判断力、表現力などを向
	上させられるよう取り組んでいく。	
多様性を	・大学の模擬授業及び外部講師による講演	・特になし
認め自他	会の実施やZOOMを活用した研修会に積極的	
を尊重す	に参加することができた。	
る指導の	・欠席が増加傾向がある生徒に対して、継	
推進	続的に組織的に対応することができた。	In Waste II to I Notes
改善		報・資料の共有方法等について工夫、改善を図る。
方策		こより、生徒の心情や困り感を共有することができ
	た。次年度も継続して積極的に活用し、生	
自己の将		・進路指導を丁寧に行い、個別対応していること
来を見つ		が結果として出ている。
め自己実	・就職、進学指導に関わる一連の流れにつ	
現を目指	いて、生徒のみならず、教員をしっかりと	
す指導の	把握しておくことが必要。	
推進	・学年に応じた適切な保護者との意思疎通	
I	や連携を図る手立てを継続していく。	[

改善	・生徒の興味関心、進路希望などのデータを継続的に収集し、生徒一人ひとりの個別ニーズに	
方策	対応できるよう取り組む。	
	・生徒や保護者への幅広い進路情報の発信や学年別保護者説明会を実施するなど周知をしてき	
	た。次年度も継続して取り組む。	
	・公営塾との情報交換をより強化し、連携しながら取り組む。	
健康や安	・いのちの大切さをテーマとした「いのち ・特になし	
全、命の	の教室」を外部講師を招いて開催した。	
大切さを	・一日防災教室を実施した。	
自覚する	・スクールカウンセラーによる対人関係や	
指導の推	コミュニケーションスキル向上のための講	
進	演を実施した。	
改善	・「いのちの教室」を次年度以降も継続して取り組む。	
方策	・一日防災教室(防災訓練や防災講話)、全校生徒面談を通し、生徒の健康安全の意識を高め	
	ることができた。次年度も継続して取り組む。	
地域の資	・利尻山登山や全島一周等を地域資源を・ふるさと教育の充実が高校魅力化に繋がってい	
源及び各	活用して実施することができた。また、コる。	
学年の特	ーディネーター等に支援していただきなが	
色を活か	ら安全面の体制を整えることができた。	
した教育	・商業科による販売実習会を島内外で実施	
活動の充	した。	
実		
改善	- 地域の観光真原のバベンケーや商業科が取り組む「利高商業ノエケ」や連路指導部が主催する「企業勉強会」等、地域資源を活用した教育活動を推進することができた。次年度も引き続	
方策	る「正案勉強会」等、地域負債を借用した教育指動を推進することがくさん。伏平度も引き続しき、地域の協力を得ながら教育活動に取り組む。	
	・学校HPやSNS等を通し、生徒の様子や学校の取組を発信し、教育活動の理解に努めた。次年	
	度も引き続き、教育活動の情報を提供していく。	
学校教育	・効率的な時間管理と仕事の優先順位付け・組織運営での課題解決に向けての校内研修を実	
目標・学	など、個別面談を通して、業務の効率化を 施するなど、事業継続の体制づくりに期待してい	
校経営目	図るなど業務の整理を進めていくことが必 る。	
標等の共	要である。	
通理解に	・月2回定時退勤日を設定している。	
基づく協	・校内研修会を3回実施し、次年度以降の	
働体制の	の組織体制や目標設定、計画について見直	
構築	しを行った。	
改善	・各行事や分掌業務について、その都度、反省・見直すなど、業務の平準化や分掌・学年・委	
方策	員会等における業務内容の精選に努める。	
学校課題	・教員の生徒指導(生徒相談)、進路指導・特になし	
や自己課	の基礎・基本や教科指導力が不足している	
題等を踏	など、生徒への指導の在り方や指導方法の	
まえた教	研修が必要。	
育の資質		
の向上		
改善	・オンライン研修への積極的な参加、活用を促し、教員の資質能力の向上に努めた。	
方策	・外部講師の研修会を積極的に実施した。	

- 添付資料 1) 令和5年度学校評価(自己評価)
  - 2) 令和5年度学校評価(保護者)
  - 3) 令和5年度授業評価アンケート集計概要
  - 4) 令和5年度学校評価(学校関係者)